

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／大石 雅章

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

日本史の教科専門の分野の授業を担当している立場から、教育実践力をもつ教員として重要な要素は、まず、教科の学問としての基礎的な内容を教えるとともに、教員となった後も教科についての内容を深める能力を身につけさせることが重要である。日本史概論では、日本史の概説的名著である網野善彦『日本中世の民衆像』(岩波新書)をテキストに日本史への理解を深めさせる。日本史特論1(古代・中世)では日本の古代・中世のそれぞれの社会構造の特色を理解させるために荘園制を核に授業を進め、必要に応じて高等学校教科書の記述を提示しながら理解を深めさせる。大学院の授業及び卒論研究・課題研究では、教師になっても持続的に教科研究ができる能力を習得させる点に重点を置きながら指導をおこなう。

2. 点検・評価

日本史の教科専門の分野の授業を担当している立場から、日本史概論・日本史特論1(古代・中世)・史学演習・史料購読の学部授業、歴史学演習1の大学院授業で、中・高教科書や図版資料プリントなど配り説明し、教科の学問としての基礎的または応用的な内容を習得させ、教育実践力をはぐくむために努めた。しかし、授業評価をみれば、昨年度から高くなったといっても、まだまだすべての授業で期待した評価を得ているわけではない。その点を反省し改善する必要がある。日本史に興味のある学生が受講する日本史特論1(古代・中世)等は授業評価も高いが、あまり興味のない学生が受講生に含まれる日本史概論では、学生間において高い評価と低い評価に分かれる。高校までに習得した知識量も受講生において差があり、授業内容のレベルも説明方法も含めて今後も継続的に改善していく必要がある。検討しなければならない。大学院の課題研究では、教師になっても持続的に教科研究ができる能力を習得させる点に重点を置きながら指導をおこなった。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①学生生活支援・就職支援担当副学長として、学生の教育研究活動、就職活動、課外活動、ボランティア活動など、大学生活での諸活動が充分に出来るように可能な限り支援する。
- ②教員としては、指導学生(ゼミ生)をはじめ学生の教育研究活動に対して、可能な限り支援する。

2. 点検・評価

- ① 学生生活支援・就職支援担当副学長として、学生の教育研究活動、就職活動、課外活動、ボランティア活動など、大学生活での諸活動が十分に出来るように可能な限り支援した。とくに就職支援では就職支援室の活動および全学の教職員の支援を得て、平成24年3月卒業・修了学生の教員採用率も、ほぼ前年度と同じく高水準であることに、安堵を得た。
- ② 教員としては、指導学生(ゼミ生)をはじめ学生の教育研究活動に対して、可能な限り支援していた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ① 現代GP修了後ではあるが、本学の特色となっている教育実践力を見据えた遍路を活用した教育研究活動をチームとしてすすめる。
- ② 自らの中世寺院史研究をすすめるのに併せて、教育においてその成果をいかに生かせるかを検討する。

2. 点検・評価

- ① 現代GP修了後ではあるが、本学の特色となっている教育実践力を見据えた遍路を活用した教育研究活動をチームとしてすすめている。今年も遍路体験授業や子ども歩き遍路を実施し、学生の教員としての資質を得るための教育研究活動をすすめた。本学の遍路研究の活動が他大学や自治体にも認められ、愛媛大学での「四国遍路と世界の巡礼」公開講演会・研究集会では「遍路文化を活かした地域人間力育成の取り組みー鳴門教育大学の場合ー」を講演し、また徳島県から遍路札所寺院の文化財調査の委託事業(代表町田哲)に協力した。また59回中国・四国地区大学教育研究会で「遍路文化を活かした地域人間力育成の取り組みー歴史学の立場からー」を報告した。
- ② 自らの中世寺院史研究をすすめるのに併せて、教育においてその成果をいかに生かせるかを検討し、その成果を活用した学部・大学院の授業を行った。なお、中世寺院史研究に時間をなかなか割くことができず、この点は今後の研究上の反省点として改善していかなければならない。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ① 学生生活支援・就職支援担当副学長として、責任を果たせるよう可能な限り努め、とくに専門職の大学として学生のキャリアアップを目指した教育支援(就職支援)および大学生生活支援をすすめ、その成果が大いに発揮できるよう努める。
- ② 第2期中期目標が必ず達成できるよう、学生支援委員会・就職委員会などを通じて学内の運営に努める。

2. 点検・評価

- ① 学生生活支援・就職支援担当副学長として、責任を果たせるよう可能な限り努めている。学生生活支援では、「学生懲戒規定」を作成するなど、学生生活支援において、よりクリアな運営をめざした体制作りにも努めた。また教員養成大学として学生のキャリアアップを目指した教育支援(就職支援活動)および大学生生活支援をすすめ、その成果が大いに発揮できるよう努めた。
- ② 第2期中期目標が必ず達成できるよう、学生支援委員会・就職委員会などを通じて学内の運営に努めた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属学校との実習など含め実践的な教育活動を、副学長として学生生活支援から可能な限り支援する。また一教員として、指導学生をはじめ学生の実習などを支援する。
- ②四国遍路のプロジェクトで形成された地域社会との連携やそのノーハーを活かして、大学の社会連携活動を支援する。

2. 点検・評価

- ①附属学校との実習など含め実践的な教育活動を、副学長として学生生活支援から可能な限り支援した。また教員として、指導学生等の実習校を訪れ、学生の実習について指導を行うなど支援をおこなった。とくに協力校校長から指導学生への高い評価を訪問の際にいただいた時は、安堵と同時に日頃の指導が報われたようである。
- ②四国遍路のプロジェクト等で形成された地域社会との連携やそのノーハーを活かして、大学の社会連携活動を支援した(鳴門市文化財審議会・板東俘虜収容所調査検討委員会・徳島県県立文書館協議会・吉野川市生涯学習講座・松茂町教育委員会大学連携図書館講座・シルバー大学校歴文クラブ講座・アサビール遍路清掃ボランティア・徳島FM徳島キャンパスリンク等)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)